

## 学 長 候 補 者 調 書

(履歴事項)

令和5年3月14日現在

氏名	(フリガナ) タグチ サトシ 田 口 哲																														
生年月日	昭和43年 月 日 (満55歳)																														
現住所																															
最終学歴	北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程 物質環境科学専攻修了																														
学位・称号	博士 (地球環境科学)																														
専門分野	化学 (物理化学・電気化学・化学教育)																														
現(元)職名	北海道教育大学副学長																														
経歴 (学歴・職歴)	<table border="1"> <tr> <td>昭和61年3月</td> <td>北海道紋別北高等学校卒業</td> </tr> <tr> <td>昭和62年4月</td> <td>北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻入学</td> </tr> <tr> <td>平成3年3月</td> <td>北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻卒業</td> </tr> <tr> <td>平成3年4月</td> <td>北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻入学</td> </tr> <tr> <td>平成5年3月</td> <td>北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻修了</td> </tr> <tr> <td>平成5年4月</td> <td>北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻入学</td> </tr> <tr> <td>平成8年1月</td> <td>日本学術振興会 特別研究員採用 (～平成8年3月)</td> </tr> <tr> <td>平成8年3月</td> <td>北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻修了</td> </tr> <tr> <td>平成8年4月</td> <td>北海道教育大学講師 教育学部札幌校</td> </tr> <tr> <td>平成12年4月</td> <td>北海道教育大学助教授 教育学部札幌校</td> </tr> <tr> <td>平成15年2月</td> <td>文部科学省在外研究員 (アリカンテ大学客員研究員 ～平成15年12月)</td> </tr> <tr> <td>平成19年4月</td> <td>北海道教育大学准教授 教育学部札幌校 (助教授から職名変更)</td> </tr> <tr> <td>平成23年4月</td> <td>北海道教育大学教授 教育学部札幌校</td> </tr> <tr> <td>令和元年10月</td> <td>北海道教育大学札幌校キャンパス長</td> </tr> <tr> <td>令和3年10月</td> <td>北海道教育大学副学長 (特命担当: 教員養成改革), 現在に至る</td> </tr> </table>	昭和61年3月	北海道紋別北高等学校卒業	昭和62年4月	北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻入学	平成3年3月	北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻卒業	平成3年4月	北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻入学	平成5年3月	北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻修了	平成5年4月	北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻入学	平成8年1月	日本学術振興会 特別研究員採用 (～平成8年3月)	平成8年3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻修了	平成8年4月	北海道教育大学講師 教育学部札幌校	平成12年4月	北海道教育大学助教授 教育学部札幌校	平成15年2月	文部科学省在外研究員 (アリカンテ大学客員研究員 ～平成15年12月)	平成19年4月	北海道教育大学准教授 教育学部札幌校 (助教授から職名変更)	平成23年4月	北海道教育大学教授 教育学部札幌校	令和元年10月	北海道教育大学札幌校キャンパス長	令和3年10月	北海道教育大学副学長 (特命担当: 教員養成改革), 現在に至る
昭和61年3月	北海道紋別北高等学校卒業																														
昭和62年4月	北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻入学																														
平成3年3月	北海道教育大学教育学部旭川分校 小学校教員養成課程理科専攻卒業																														
平成3年4月	北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻入学																														
平成5年3月	北海道大学大学院理学研究科 修士課程化学専攻修了																														
平成5年4月	北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻入学																														
平成8年1月	日本学術振興会 特別研究員採用 (～平成8年3月)																														
平成8年3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士後期課程物質環境科学専攻修了																														
平成8年4月	北海道教育大学講師 教育学部札幌校																														
平成12年4月	北海道教育大学助教授 教育学部札幌校																														
平成15年2月	文部科学省在外研究員 (アリカンテ大学客員研究員 ～平成15年12月)																														
平成19年4月	北海道教育大学准教授 教育学部札幌校 (助教授から職名変更)																														
平成23年4月	北海道教育大学教授 教育学部札幌校																														
令和元年10月	北海道教育大学札幌校キャンパス長																														
令和3年10月	北海道教育大学副学長 (特命担当: 教員養成改革), 現在に至る																														
<p>私は、学長候補者選考の過程でこの調書及び学長候補者所信書の内容が公表されることに同意します。</p> <p style="text-align: center;">氏 名 田 口 哲 (自署)</p>																															

(注) 用紙は、A4縦型とする。

## 主要業績

(教育関係)

### 1. 担当授業科目 (現時点)

#### 【学部】

- アカデミックスキル [教養科目：共通基礎科目] (2単位・分担)
- 情報機器の操作H [教養科目：共通基礎科目] (2単位・分担)
- 現代と科学 [教養科目：現代的教養科目] (2単位・分担)
- 教育フィールド研究IV [教職課程コア科目：教科フィールド科目] (2単位・分担)
- 中等理科教育法II [教職課程コア科目：教科指導科目] (2単位・分担)
- 化学基礎実験A・B [教職課程コア科目：教科に関する専門科目] (各1単位・分担)
- 物理化学I [専攻科目] (2単位・単独)
- 物理化学II [専攻科目] (2単位・単独)
- 物理化学III [専攻科目] (2単位・単独)
- 化学実験I [専攻科目] (2単位・単独)
- 化学教材研究 [研究発展科目] (2単位・単独)
- 化学特講 [研究発展科目] (2単位・単独)
- 化学演習 [研究発展科目] (2単位・単独)
- 卒業研究 (4単位・単独)

#### 【教職大学院】

- 教科内容研究 (理科教育化学分野) I (1単位・単独)
- 教科内容・教材開発 (理科教育化学分野) I (1単位・単独)

### 2. 教育実績

#### 【学部】

担当している理科教育分野の授業科目の系統性を以下に示す。

#### ① 高大接続教育

↓ <アカデミックスキル, 情報機器の操作>

#### ② 小・中学校で理科を教える際に必要な知識・実験技能の基礎教育

↓ <化学基礎実験A・B>

#### ③ 小・中学校理科の物理化学分野で扱われる内容の学問的背景の専門教育 (教科内容学)

↓ <物理化学I・II・III, 化学実験I, 化学特講, 化学演習>

#### ④ 上記の基礎教育・専門教育を基にした理科教育の実践的教育

↓ <中等理科教育法II, 化学教材研究, 教育フィールド研究IV>

#### ⑤ 卒業研究

- ① アカデミックスキルでは、大学教育に必要なスキルの獲得を目指し、学生により、高等学校での理科の履修状況に差があることも踏まえながら、高校化学の学習内容を題材にして大学での教育に必要な土台作りを行った。さらに、大学の化学教育で不可欠な、測定・物理量・単位・有効数字等の基礎的内容の教育を行った。
- ② 化学基礎実験A・Bでは、小・中学校で理科を教える上で最低限必要な基礎知識を学生自らが実験を通して学ぶと同時に、レポート指導を通して、初等・中等教育における学力の3要素の一つである「思考力・判断力・表現力」を育成するよう努めた。レポートは毎回朱を入れて返却

した。この際、一定レベルに到達していない場合は、そのレベルをクリアするまで再提出を求めた。さらに、安全面に対する配慮並びに教育効果向上のため、同内容の授業を2展開し、少人数教育を行った。

- ③ 物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、化学実験Ⅰ等では、主に、化学領域に配属された学生に対する化学の専門教育を行った。ここでは、学生を授業に主体的に参加させるため、課題演習を繰り返して添削結果を学生にフィードバックすると同時に、学生との双方向のやり取りを重視した教育を進めた。豊かな知識や教養はもちろんのこと、広く社会で信じられている言説が正しいのかを自ら批判的に検討する能力も小・中学校教員には必要であり、主体的かつ科学的にものを考えるための知識と方法、すなわち「科学する力」を学生に身につけさせるような教育を展開するよう努めた。その際「科学する力」にとって極めて大切なのが「言語力」であることを機会あるごとに学生たちに説いた。加えて、こうした専門教育の内容は、小・中学校や高等学校で教えられている化学の学問的背景、すなわち、教師が自信を持って教えるには理解しておかねばならない内容であることを具体的に説明するようにした。
- ④ このような基礎教育・専門教育を基盤として、中等理科教育法Ⅱや化学教材研究、教育フィールド研究Ⅳでは、教育現場での実践に係る内容の教育を行った。例えば、中等理科教育法Ⅱでは、中学校で理科を学ぶ際に必要な小学校理科の内容を教科の系統性を踏まえてレポートにまとめさせたり、中学校理科の目標である「…科学的な見方や考え方を養う」の「科学的」とは何かを具体的に考えさせたりした。化学教材研究では、受講生に小・中学校理科の教科書に掲載されている化学実験を実際に行わせて教材を研究させた上で模擬授業を行い、模擬授業終了後に受講生同士で授業内容を省察させた。教育フィールド研究Ⅳでは、化学の専門教育で学んだ内容を基盤として、札幌校地域貢献事業「土曜講座」で子供たちへの指導を学生に担当させた。指導内容の検討、教材開発、指導実践を通して、子供の発達段階に応じて教えることの難しさや、教えるにあたっての理科の深い知識と理解の必要性を実感させる指導を行った。
- ⑤ 4年次の卒業研究では、学生自らが主体的に活動することで「科学する力」が一つの形になるよう努めた。学生の希望に応じ、化学の専門研究もしくは化学の教材開発をテーマとしており、可能な限り学会等で発表するようにしている。

#### 【大学院】

- (1) 修士課程大学院生研究指導実績：12名（現職教員1名含む）

修士課程の指導大学院生の研究テーマは、希望に応じて、候補者の専門分野である物理化学もしくは化学教育をテーマとしたが、いずれも初等・中等教育の理科教育を意識したテーマ設定を行った。当初は化学そのものをテーマとする者が多かったが、次第に、中等教育における理科教育に関する課題や教材開発をテーマとする者が増えていった。大学院生には、研究成果を学会で発表したり、学会誌に投稿したりするように働きかけて、理科の専門性を高めた。修了生は、いずれも小学校教員・中学校教員（含む附属学校教員）・高等学校教員（含む管理職）・教育委員会等で活躍している。

- (2) 高度教職実践専攻（教職大学院） 副指導教員としての指導実績：2名

1名は高等学校教員としての採用が決まっており、もう1名は在学中である。

## 主 要 業 績

## (研究関係)

## 1. 著書

- 1) 八田明夫, 丹沢哲郎, 土田 理, 田口 哲, 理科教育学-教師とこれから教師になる人のために-, 東京教学社 (2004)
- 2) 浅川哲弥, 小原繁, 蠣崎悌司, 田口 哲, 平山雄二, 解説実験書『新しい北海道の理科』 化学編, 北海道教育大学 (「21世紀型実践の指導力を有した理科教員の養成・支援プログラムの開発」プロジェクト) (2012)
- 3) 太田健一郎, 田口 哲, 他 214名, 電気化学便覧 第6版 (執筆担当 第2章 単位・物性値 2.1 単位と基礎物理量), 電気化学会編 丸善出版株式会社 (2013)
- 4) Chihiro SAKAI, Apryl Cruz Bagnate, Osamu ABE, Tetsuya ASAKAWA, Satoshi TAGUCHI, Teiji KAKIZAKI, Yuji HIRAYAMA, Gen TAKAKU, Kanji NAMIKAWA, Kenichi KIMURA, Shinichi HIRUTA, Fusayuki KANDA, Naoyuki FUJIYAMA, Sayo TOMITA, Yuich ITO, Yasuo IKEDA, Satoshi OKAMURA, Keiji WADA, Eiichi SATO, Akihiko SUZUKI, Tsuneya TAKAHASHI, Tomohiko SEKIGUCHI, Koichi FURUYA, Hidetoshi ANDOH, Susumu OHMORI, Shunsuke YAMAMOTO, Effective Instruction of Experiments and Observations (The Three States of Matter: Present State of Particles in Matter), Project of Science, Hokkaido University of Education (2013)

## 2. 教科用図書

- 1) 大矢禎一, 鎌田正裕, 田口 哲ほか 143名, 中学校理科用 文部科学省検定済教科書 未来へひろがるサイエンス1~3, 新興出版社啓林館 (2021)
- 2) 石浦章一, 鎌田正裕, 大隅良典, 田口 哲 他 62名, 小学校理科用 文部科学省検定済教科書 わくわく理科3~6, 新興出版社啓林館 (2020)

ほか小・中学校理科教科書および教師用指導書等 10編

## 3. 学術論文

## 【物理化学】

- 1) Md. A. Quaiyyum, A. Aramata, S. Taguchi and M. Enyo, Underpotential deposition (UPD) of  $Zn^{2+}$  ions on palladium and platinum at various pHs, *Electrochemistry* (Denki Kagaku), 61 (7), pp.847-848 (1993) レフリー論文
- 2) 田口 哲, In situ 測定法組み合わせによる電極反応場の構造・ダイナミクスの解明および電極機能の設計をめざす, 電気化学および工業物理化学, 61(1), pp.107-108 (1993) レフリー論文
- 3) S. Taguchi, T. Ohmori, A. Aramata and M. Enyo, Adsorption of CO and CO<sub>2</sub> on polycrystalline Pt at a potential in hydrogen adsorption region in phosphate buffer solution: An in situ FTIR study, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 369(1-2), pp.199-205 (1994) レフリー論文
- 4) S. Taguchi, A. Aramata, H. Naohara and H. Kita, The CO adsorbed species characterization by in situ FTIR: I. Polycrystalline Pt electrodes in a wide pH range, *Electrochemistry* (Denki Kagaku), 62 (6), pp.513-515 (1994) レフリー論文
- 5) S. Taguchi, A. Aramata, and M. Enyo, Reduced CO<sub>2</sub> on polycrystalline Pd and Pt electrodes in neutral solution: Electrochemical and in situ FTIR studies, *Journal*

- of Electroanalytical Chemistry*, 372 (1-2), pp.161-169 (1994) レフリー論文
- 6) S. Taguchi, A. Aramata, Md. A. Quaiyyum and M. Enyo, UPD of  $Zn^{2+}$  on low index single crystal platinum electrodes in acidic solutions, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 374 (1-2), pp.275-277 (1994) レフリー論文
  - 7) Md. A. Quaiyyum, A. Aramata, S. Moniwa, S. Taguchi and M. Enyo, Underpotential deposition of  $Zn^{2+}$  on platinum, palladium and gold at various pH values, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 373 (1-2), pp.61-66 (1994) レフリー論文
  - 8) S. Taguchi, A. Aramata, Surface structure sensitive reduced  $CO_2$  formation on Pt single crystal electrodes in sulfuric acid solution, *Electrochimica Acta*, 39 (17), pp.2533-2537 (1994) レフリー論文
  - 9) H. Kita, H. Naohara, T. Nakato, S. Taguchi, and A. Aramata; Effect of adsorbed CO on hydrogen ionization and CO oxidation reactions at Pt single crystal electrodes in acidic solution, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 386 (1-2), pp.197-206 (1995) レフリー論文
  - 10) Satoshi Taguchi, Akiko Aramata, Voltammetric study of underpotential deposition (upd) of  $Zn^{2+}$  ions on Pt(111): Effect of adsorbed anion, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 396 (1-2), pp.131-137 (1995) レフリー論文
  - 11) Aramata, S. Terui, S. Taguchi, T. Kawaguchi and K. Shimazu, Underpotential deposition of zinc ions on polycrystalline platinum: FTIR and EQCM study, *Electrochimica Acta*, 41 (5), pp.761-766 (1996) レフリー論文
  - 12) S. A. Abd El-Maksoud, Satoshi Taguchi, Toshihiro Fukuda and Akiko Aramata, Co-underpotential deposition of copper and zinc ions on Pt(111), *Electrochimica Acta*, 41 (13), pp.1947-1952 (1996) レフリー論文
  - 13) A. Aramata and M. Nakamura and T. Fukuda and S. Taguchi, The underpotential deposition of zinc ions on single crystal electrodes and the effect of the adsorbed anions, *Proceedings of International Meeting of Surface Electrochemistry*, pp.50-51 (1997)
  - 14) S. Taguchi, T. Fukuda, and A. Aramata, Kinetics study of underpotential deposition of zinc ions on Pt(111) in acidic phosphate solution, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 435 (1-2), pp.55-61 (1997) レフリー論文
  - 15) S. Taguchi and A. Aramata, Correlation of the underpotential deposition (UPD) of zinc ions on Pt(111), Pt(100), and Pt(110) with anion specific adsorption, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 457 (1-2), pp.73-81 (1998) レフリー論文
  - 16) A. Aramata, S. Taguchi, T. Fukuda, M. Nakamura and G. Horanyi, Underpotential deposition of zinc ions at single crystal electrodes and the effect of the adsorbed anions, *Electrochimica Acta*, 44 (6-7), pp.999-1007 (1998) レフリー論文
  - 17) S. Taguchi, M. Kondo, S. Takahashi, and A. Aramata, Underpotential deposition (upd) of zinc on Au(111) in phosphate solution: Anomalous effect of phosphate co-adsorption on Zn upd, *Proceedings of Frontiers of Nano-scale Catalysis and Electrochemistry*, pp.77-78 (2001)
  - 18) K. Igarashi, A. Aramata and S. Taguchi, The underpotential deposition of Zinc ions at Pt(111) in Alkaline Solution: Effect of Hydroxyl Species, *Electrochimica Acta*, 46 (12), pp.1773-1781 (2001) レフリー論文

別記様式第2号

- 19) Shin Takahashi, Akiko Aramata, Mitsuhiro Nakamura, Kiyoshi Hasebe, Masahiro Taniguchi, Satoshi Taguchi, Akihiko Yamagishi, Electrochemical and in-situ STM studies of anomalous phosphate adsorption induced on Zn UPD at Au(111) in the presence of halide ions in aqueous phosphate solutions, *Surface Science*, 512 (1-2), pp. 37-47 (2002) レフリー論文
- 20) K. Nakata, M. Sakamoto, S. Taguchi, N. Yoshida, K. Shimazu, Facile Formation of Water-Insoluble Cyclodextrin/Nafion Composite Films on Solid Surfaces, *Journal of Colloid and Interface Science*, 28 (2), pp. 634-637 (2005) レフリー論文
- 21) 嶋津克明, 中田 耕, 吉永裕介, 田口 哲, 電気化学環境修復—硝酸性窒素の電解還元除去 (特集 電気化学反応による環境有害物質の分解・除去技術), *Electrochemistry*, 74 (9), pp. 774-778 (2006)
- 22) Satoshi Taguchi and Juan M. Feliu, Electrochemical reduction of nitrate on Pt(S)[n(111)x(111)] electrodes in perchloric acid solution, *Electrochimica Acta*, 52 (19), pp. 6023-6033 (2007) レフリー論文
- 23) Satoshi Taguchi, Juan M. Feliu, Kinetic study of nitrate reduction on Pt(110) electrode in perchloric acid solution, *Electrochimica Acta*, 53 (10), pp. 3626-3634 (2008) レフリー論文
- 24) A. El-Shafei, Satoshi Taguchi, Akiko Aramata, Zinc underpotential deposition at Pt(111) and Pt(110) under influence of boric acid and chloride anions, *Russian Journal of Electrochemistry (Elektrokhimiya)*, 44 (6), pp. 690-696 (2008) レフリー論文
- 25) Satoshi Taguchi, Masanari Kondo, Hiroki Mori, and Akiko Aramata, Formation of zinc-oxianion complex adlayer by underpotential deposition of Zn on Au(111) electrode: preferential formation of zinc monohydrogen phosphate complex in weakly acidic solutions, *Electrochimica Acta*, 111 (30), pp. 642-655 (2013) レフリー論文
- 26) Masaru Kato, Manabu Okui, Satoshi Taguchi, Ichizo Yagi, Electrocatalytic nitrate reduction on well-defined surfaces of tin-modified platinum, palladium and platinum-palladium single crystalline electrodes in acidic and neutral media, *Journal of Electroanalytical Chemistry*, 800 (1), pp. 46-53 (2017) レフリー論文
- 27) Masaru KATO, Ai ARAKI, Yuki HARA, Satoshi TAGUCHI, Ichizo YAGI, Cathodic Arc-plasma Deposition of Platinum Nanoparticles on Fluorine-doped Tin Oxide for Electrocatalytic Nitrate Reduction Reaction, *Electrochemistry*, 86 (5), pp. 220-222 (2018) レフリー論文
- 28) 鵜沼佑規, 奥井 学, 田口 哲, 加藤 優, 八木一三, スズを修飾した貴金属単結晶電極における硝酸イオン還元, *表面と真空*, 64 (8), pp. 364-368 (2021)
- 29) Masaru Kato, Yuki Unuma, Manabu Okui, b Yunteng Qu, Satoshi Taguchi, Fumiya Kiguchi, Mashu Torihata, Yunzhi Gao, Nagahiro Hoshi, Ichizo Yagi, Electrocatalytic activity and volatile product selectivity for nitrate reduction at tin-modified Pt(100), Pd(100) and Pt-Pd(100) single crystal electrodes in acidic media, *Electrochimica Acta*, 398, 139281 (2021) レフリー論文

## 【化学教育・理科教育】

- 1) 森川鐵朗, 田口 哲, 熱力学的物理量としての温度の導入法について, 上越教育大学研究紀要, 18 (1), pp. 285-299 (1998)
- 2) 田口 哲, 仲野恵美子, マロン酸およびその関連誘導体臭素化反応の速度論的解析: 熱力学的物理量が反応速度に与える影響を理解するための化学教材, 化学教育ジャーナル(CEJ), 3 (1), pp. 3-5 (1999)
- 3) 田口 哲, 貝谷康治, 外挿法で絶対零度に挑戦する～三角フラスコと注射器を用いたシャルルの法則の確認実験, 化学と教育(日本化学会), 48 (12), pp. 808-810 (2000) レフリー論文
- 4) 田口 哲, 笠野恵子, アセトンヨウ素化反応の速度論的研究-CCDカメラとコンピュータを利用した反応速度測定教材開発の為の予備的検討-, 北海道教育大学紀要(自然科学編), 51 (2), pp. 37-44 (2001)
- 5) 田口 哲, 化学教育におけるデジタルプレゼンテーションコンテンツの開発とWebサーバとの連帯に関する実践的研究: 理科教員を目指す学生にとって「よりわかりやすい授業」を設計する, 北海道教育大学教育実践総合センター紀要, (2), pp. 75-83 (2001)
- 6) 森川鐵朗, 田口 哲, モル次元の教材化と物質量の釣り合いについて, 上越教育大学研究紀要, 20 (2), pp. 535-548 (2001)
- 7) 田口 哲, 笠野恵子, CCDカメラとコンピュータを用いた画像解析法による反応速度測定教材の開発:アセトンのヨウ素化反応速度の測定, 化学と教育(日本化学会), 49 (3), pp. 158-159 (2001) レフリー論文
- 8) 森川鐵朗, 田口 哲, 化学電池を教材とするエントロピーとギブスエネルギーと熱力学的可逆過程の導入法について, 上越教育大学研究紀要, 21 (2), pp. 431-442 (2002)
- 9) 田口 哲, 渡辺勤, 手作り簡易型分光器・CCDカメラ・コンピュータを活用した発光スペクトル教育用演示実験システム, 化学と教育(日本化学会), 50 (4), pp. 329-330 (2002) レフリー論文
- 10) 田口 哲, 松村幸子, 顕微鏡・デジタルビデオカメラ・コンピュータを活用した塩化ナトリウム結晶成長速度の測定教材, 理科の教育(日本理科教育学会), 52 (10), pp. 31-33 (2003)
- 11) 田口 哲, 並川寛司, 岡村 聡, 森田みゆき, 科学に対する深い興味の喚起を促す小・中学生向け実験・観察プログラムの開発と実践: 拓北・あいの里地区地域連携事業「土曜講座」, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 56 (1), pp. 131-146 (2005)
- 12) 田口 哲, 並川寛司, 岡村 聡, 森田みゆき, 杵淵 信, 教科の専門性に裏打ちされた「科学・技術・芸術」に対する深い興味の喚起を促す小・中学生向け講座の開発と実践—拓北・あいの里地区地域連携ボトムアップ型事業「土曜講座」, 北海道教育大学生涯学習教育研究センター紀要, (8), pp. 185-187 (2008)
- 13) 田口 哲, 樋田拓至, 条件制御下における食塩水滴中の結晶析出挙動の観察教材—コンピュータとデジタルビデオカメラ装着実体顕微鏡を活用した実験教材プロトタイプの開発—, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 59 (2), pp. 33-42 (2009)
- 14) 田口 哲, 佐藤久典, 条件制御下での食塩水滴からの結晶析出観察用顕微鏡システムの製作, 化学と教育(日本化学会), 61 (5), pp. 250-253 (2013) レフリー論文
- 15) 柚木朋也, 尾関俊浩, 田口 哲, 融雪剤を用いた簡易霧箱の開発, 物理教育(日本物理教育学会), 63 (1), pp. 35-38 (2015) レフリー論文

別記様式第2号

- 16) 田口 哲, 大滝優実, 瀧上哲, 仲鉢大地, 柚木朋也, プラスチックシリンジと三方コックを活用した簡便な気体同定実験教材の開発と化学教育での実践, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 66(1), pp. 135-147 (2015)
- 17) 濱谷成樹, 田口 哲, 井上祥史, プログラミング言語 Processing による中和滴定シミュレーションの開発と高等学校化学教育での実践, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 69(2), pp. 191-206 (2019)
- 18) 濱谷成樹, 田口 哲, 中学校・高校におけるダニエル電池製作・実験方法に関する考察, 日本理科教育学会 北海道支部大会発表論文集, (29), pp. 5-8 (2019)
- 19) 柚木朋也, 尾関俊浩, 平久夫, 田口 哲, 高久元, 鈴木明彦, 並川寛司, 採用前小学校理科研修における現状と課題, 北海道教育大学紀要(教育科学編), 71(2), pp. 131-145 (2021)

【教員養成学】

- 1) 佐々祐之, 田口 哲, 佐川正人, 教員養成学の構築に関する基礎研究—デザイン科学の視点から—, 平成30年度日本教育大学協会研究集会発表概要集, pp. 172-173 (2018)
- 2) 佐々祐之, 田口 哲, 小野寺基史, 姫野完治, 佐川正人, 教員養成学を基盤とした教職大学院のカリキュラム開発—北海道教育大学教職大学院の改組に向けて—, 令和元年度日本教育大学協会研究集会発表概要集, pp. 74-75 (2019)
- 3) 佐々祐之, 小野寺基史, 姫野完治, 田口 哲, 佐川正人, “教員養成学”を基盤とした教職大学院のカリキュラム開発—デザイン科学を視点とした基本理念の構築とその具体化—, 北海道教育大学大学院高度教職実践専攻紀要, (12), pp. 15-24 (2022)

4. 学会発表・講演等

計 130 編

(注) 用紙は, A4 縦型とする。



## 主要業績

(社会貢献関係)

1. 文部科学省関係
  - 1) 文部省 大学入試センター 教科専門委員会委員 1999～2001年
  - 2) 独立行政法人 大学入試センター 教科科目第二委員会委員 2006～2012年
2. 学校教育関係
  - 1) 札幌市教育委員会 札幌市教員育成フレッシュャーズセミナー講師 2014～2019年
  - 2) 教員免許状更新講習 講師 2009～2021年
3. 日本教育大学協会関係
  - 1) 日本教育大学協会企画・調査委員会「エビデンスに基づく国立大学教員養成の将来像検討ワーキンググループ」(国立大学教員養成の成果に関するエビデンス調査グループ) 委員 2018～2019年
  - 2) 日本教育大学協会北海道地区 監事 2019年～(現在に至る)
  - 3) 令和4年度日本教育大学協会研究集会 実行委員長 2021年
4. 学会役員等
  - 1) 公益社団法人電気化学会 北海道支部幹事 1996年～(現在に至る)
  - 2) 公益社団法人電気化学会 北海道支部常任幹事 2003～2009年
  - 3) 公益社団法人電気化学会 評議員 2007～2009年
  - 4) 公益社団法人電気化学会 代議員 2020年～(現在に至る)
  - 5) 公益社団法人日本化学会 化学教育賞等選考委員会委員 2022年
5. 研修会・研究会等における講師等
  - 1) 理系科目の連携の問題点 パネル討論～「高校との接続をどうするか？」パネリスト 平成14年度学生生活研究セミナー(民主教育協会(IDE)北海道支部・北海道大学共催) 2002年
  - 2) 見えないものを観る基礎基本—測定・単位・物理量— 大学教育の現場からみた確かな学力を育む為の小中学校理科系教育の重要性と課題 第32回苫小牧市教育研究大会理科研究部会 講演 2006年
  - 3) 第56回全国中学校理科教育研究会 助言者 2009年
  - 4) 理科教育において学習者の主体性と思考力をどのように育むか 北海道中学校理科教育研究会 特別研修会講師 2015年
  - 5) 第64回全国中学校理科教育研究会 助言者 2017年
  - 6) 高大接続改革と理科教育 平成30年度北海道高等学校理科研究会空知支部 第1回研究協議会 講演 2018年
6. その他
  - 1) 大学生協北海道事業連合 監事 2007～2008年
  - 2) 北海道教育大学生協同組合(札幌)理事長 2007～2008年
  - 3) 北海道教育大学生協同組合 常任理事 2008～2014年
  - 4) 北海道教育大学生協同組合 副理事長 2014～2015年
  - 5) 北海道教育大学生協同組合 理事長 2015～2020年

(注) 用紙は、A4縦型とする。

## 主要業績

(経営・管理運営関係)

### 1. 副学長〈教員養成改革担当〉(令和3年10月～ 現在に至る)

- 「教員養成フラッグシップ大学」への応募に係る申請書類の作成等を担当した。
- 大学戦略本部「教員養成カリキュラム改善チーム」WG 座長として中期目標5「1年次から4年次までの実習体系の再構築(学校教育の実践と省察Ⅰ・Ⅱの導入等)」を先導した。
- 概算要求「令和5年度ミッション実現加速化経費(教育研究組織改革分:令和の日本型学校教育に対応した実践型教員養成への変革を推進する部局横断型教育研究組織整備事業)」への応募に係る申請書類の作成等を担当し採択された。
- 「教員養成イノベーション機構」設置構想を担当した。
- 大学戦略本部「Ed. D. 型大学院博士課程設置に係る戦略チーム」メンバーおよび3大学による「博士課程設置に向けた検討ワーキンググループ」メンバーとして共同教育課程による博士課程設置構想を担当した。
- 大学戦略本部「教職大学院機能強化戦略チーム」メンバーとして教職大学院と学部との連携案を担当した。

### 2. 札幌校キャンパス長(令和元年10月～ 現在に至る)

- 教員会議の運営等, 札幌校における教育研究の円滑な実施に取り組んだ。
- 大学本部と同じキャンパスにあることによる「事務一元化」という札幌校の特殊性を踏まえ, 様々な関係事務との円滑なコミュニケーションに尽力した。
- コロナ禍において教育研究を止めないために危機管理を対応した。
- キャンパス内のバリアフリー化計画を進めた。
- 概算要求による施設整備事業(札幌校講義棟改修)の計画策定に取り組み, 事業評価がS評価となり事業の実施が決まった。
- キャンパス活性化リノベーション事業(誰でもトイレ整備事業)の計画策定とファンドレイザーとして寄付募集に取り組み, 寄付目標額に達し事業が実行された。
- 札幌キャンパスにおける「民間資金を活用した共同複合施設の整備」の実現に尽力した。

### 3. 特別補佐(教育改革室(平成23年10月～平成25年9月), 広報企画室(平成27年10月～平成29年9月), 大学院改革チーム(平成30年10月～令和元年9月))

- 教育改革室では, 担当理事を補佐し本学のカリキュラム改革に尽力した。
- 広報企画室では, 本学学園情報誌 HUE-LANDSCAPE の編集委員長として広報活動の企画と学園誌の編集を担当した。
- 大学院改革チームでは, 担当理事を補佐し新教職大学院のカリキュラム策定に尽力した。

### 4. 副学長(札幌校担当)補佐(平成19年4月～平成21年3月), 札幌校キャンパス長補佐(平成28年10月～令和元年9月)

- 札幌校の教育研究が円滑に行われるように部局長を補佐した。

(注) 用紙は, A4縦型とする。